

## シリーズ

「人権問題に関する  
府民意識調査」から  
みた啓発の課題②



## 日常生活に潜む差別の現実

奥田 均おくだ ひとしさん(近畿大学人権問題研究所 教授)

### (2) 結婚差別の体験と見聞

表4は、「あなた自身あるいはあなたの親戚や友人で、同和地区の人との結婚に関して、もめたり、反対にあったりしたことを聞いたことがありますか」との質問に対する回答結果です。「聞いたことがある」との答が23.2%あり、府民の5人に1人以上が、こうした体験や見聞をしていることがわかります。年齢階層別にみると、20歳代が14.4%と他に比べて低くなっていますが、これは結婚経験の比率がまだ少ないことによる影響だと思われます。

ところで、大阪府人口に占める同和地区人口の割合は、「2000年調査」の時点で約1.4%と報告されています。人口比からして、同和地区住民と地区外住民の結婚というケースは限られてきます。しかもその全てが「もめたり、反対にあったり」しているわけではありません。にもかかわらず、「回答者自身」あるいは「回答者の親戚や友人」という極めて限定された人間関係の範囲において、結婚差別の体験や見聞経験のある府民が23.2%も存在していることは、実に大きな割合であると言わねばなりません。「2000年調査」の同じ質問においても、同じ回答が22.2%あったことを考えると(表4)、結婚差別の現状がこの数字の中に表現されていると言えるでしょう。

■表4 年齢階層別の結婚差別事象の見聞経験

	回答者数	聞いたことがある	聞いたことはない	無回答・不明
総数	3674	23.2%	73.6%	3.3%
20~29歳	437	14.4%	84.0%	1.6%
30~39歳	610	19.0%	79.0%	2.0%
40~49歳	563	25.9%	73.0%	1.1%
50~59歳	796	28.8%	67.6%	3.6%
60~69歳	729	26.1%	69.8%	4.1%
70歳以上	539	19.9%	73.5%	6.7%
2000年調査	5568	22.2%	72.2%	5.6%

このデータを理解するためには、まずは、同和地区出身者とはならずしも同和地区に居住しているとは限らないという事実を改めて受け止める必要があります。府内同和地区からの転出者や他府県から来住してきた出身者など、多くの同和地区出身者が、同和地区外に居住しています。そして、これら同和地区外に居住する出身者に対しても、結婚差別がかなり広範囲に引き起こされているということではないでしょうか。

こうした現実が、「回答者自身」あるいは「回答者の親戚や友人」という限定された人間関係の範囲において、「同和地区の人との結婚に関して、もめたり、反対にあったりしたことを聞いたことがある」とする府民が2割以上も存在している理由だと判断されます。

「人権問題に関する府民意識調査」が明らかにしたのは、「心理的差別の現状」ばかりではありません。「同和地区の外における部落差別の現実」の一端も調査の結果は浮き彫りにしました。

府民の日常生活において、同和問題はどのように語られ、どのような登場の仕方をしているのでしょうか。第2回は、「同和地区の人はこわい」といううわさの流布と、結婚差別の体験や見聞の状況について取り上げます。

### (1) 飛び交っている、「同和地区の人はこわい」といううわさ

表1は、「あなたは『同和地区の人はこわい』というような話を聞いたことがありますか」という質問に対する回答結果です。なんと60.7%もの府民が、「聞いたことがある」としています。「2000年調査」における同じ質問においても57.6%という高い割合を示しており、それが減じる兆候は見られません。

表2は、こうしたうわさを聞いたことがあるとした回答者に、その話の入手先を尋ねた結果です。それによると、「友人」からが40.6%、「家族」からが35.1%、「近所の人」からが30.5%、「職場の人」からが22.1%などとなっています。つまり、およそ日常生活のほとんどの場において、こうした差別的情報が飛び交っている様子が浮かび上がっています。

さらに、こうした話を聞いたとき「どう感じたのか」の結果を示しているのが表3です。「そのとおりと思った」人が12.2%、「そういう見方もあるのかと思った」人が62.5%と、合わせて74.7%もの人が、この話しを肯定的に受け止めています。「反発・疑問に感じた」人は12.3%に過ぎません。なぜ、同和地区住民に関する否定的情報が多くの人にすんなりと受け入れられてしまうのでしょうか。これら一連の状況は「部落差別である」といわねばなりません。

■表1 「同和地区の人はこわい」といううわさを聞いた経験

	回答者数	話を聞いたことがある	話を聞いたことはない	無回答
2005年調査	3675	60.7%	35.8%	3.5%
2000年調査	5568	57.6%	39.1%	3.3%

■表2 「同和地区の人はこわい」といううわさの入手先(複数回答可)

回答者数	家族から	親戚から	近所の人から	友人から	職場の人から	学校の先生から	府や市町村の職員から	知らない人から	その他・無回答・不明
2231	35.1%	14.4%	30.5%	40.6%	22.1%	2.0%	1.2%	9.0%	5.6%

■表3 「同和地区の人はこわい」といううわさを聞いたときの感想

回答者数	そのとおりと思った	そういう見方もあるのかと思った	反発・疑問を感じた	とくに何も思わなかった	無回答・不明
2231	12.2%	62.5%	12.3%	12.0%	1.0%